Rotary Weekly

広島空港ロータリークラブ週報

2021年12月1日発行

SERVE TO CHANGE LIVES
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度
国際ロータリーテーマ

会長 熊谷祐司/副会長 鶴田秀樹/幹事 森崎正治/SAA 澤井一徳
事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階
TEL 0848-86-0986 ・ FAX 0848-86-0992 ・ E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp
例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

12月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
例会 例会 例会 Xmas 例会 休会 休会

本日のプログラム（12月1日）

河井会長エレクト「クラブ活性化ワークショップ報告」
佐々木財団委員長「ロータリー財団」

次回のプログラム（12月8日）

楠部 滋 会員「高齢期の生き方について」

第１２１７回　２０２１年１１月１７日　例会記録

点　　鐘　熊谷会長
ロータリーソング「我等の生業」
ロータリアンの行動規範唱和

出　席　報　告

	会員数 名誉会員	出席者	メイク	欠席 （免除）	出席率
本　日 (11/17)	28 2	20 0	1	4 3	84.00
メイク	重森				
前々回 (10/27)	28 2	20 0	0	5 3	80.00
メイク					

食　事　時　間

会　長　時　間

皆さんこんにちは。先週は竹原でのガバナー公式訪問にご出席いただきありがとうございました。

何度もしつこいようですが、戸籍収集に時間が掛かったというお客様がお見えになったので、戸籍の収集は本当に必要なのか？と言うことをお話ししたいと思います。

前にも申し上げた通り、国民一人一人に１マスターファイルを作成して、両親、配偶者、子供等のマイナンバーを入れてリンクしておけば、相続人がすぐに確定できて、その証明書がすぐに「ペロリン」と印刷されます。ところが、日本だけは未だに「目で見る紙の戸籍簿」を辿って相続人を確定しています。長い人は、郵送で１か月程度掛かり、今度は各金融機関の相続センターがそのチェックをしています。一体この相続人確定に何人の人が関与しているのか？進んだ国では１日で確定できるのに、日本では何日も掛かって、しかも大勢がそれで給与を得ているという不思議。市町村の戸籍請求センターにはパソナの派遣社員がいますので、パソナは戸籍関係事務を受託しているようです。

日本に無駄な仕事に給与を払える余裕があるのであれば、その仕事をなくして、棚田の整備、林道の整備等を委託し、今の給与を支払ってあげれば良いのではないかと思っています。

幹　事　報　告

《配 布 物》週報 1216 回
ロータリーの友・ガバナー月信 12 月号
地区大会 WEB 登録者には記念品

《回　　覧》12 月例会出欠表
ロータリー研究会第 50 回記念講演会案内
日時　2021 年 12 月 8 日(水)15:00～16:45
講演者　福岡伸一(青山学院大学教授・生物学者)
「ポストコロナの生命哲学」

卓　話　時　間

森崎正治 会員

「私も７０代になりました」

改めまして皆さん、こんにちは。ガバナー公式訪問というのは、会長・幹事にとっては、大変緊張する行事ですが、この卓話も私にとっては、公式訪問以上に緊張するものです。よろしくお願いいたします。

以前、熊谷会長から「70 歳が老化の分かれ道」という本を紹介してもらいましたが、実はその本を買って読みました。今の時代は老人向けの本が良く読まれているようで、買った時この本は「新書の売上ランキング 1 位の本」でした。週刊誌でも、老人の薬の話とか老人が亡くなった時の相続の話など、老人を話題とした特集記事が盛んに載せられております。誰が読むのだろうと考えると、日本人の高齢化がどんどん進んでいることが想像できます。又、若者の読書離れで、出版社もやむを得ずターゲットを高齢者に置かざるを得ない事情もあるようです。

「70 歳が老化の分かれ道」という本は、お医者さんが書かれた本です。「今の 70 代は現役時代の延長でいられる期間です。その 70 代の過ごし方が、若さを持続するかあるいは一気に衰えるかを左右する分かれ道である。」ということを書いています。只、今日は本の中身を紹介するのが目的ではなく、この本を読んで自分に思い当たることが多かったので話してみたいと思った次第です。普段は紹介された本を素直に読むという私ではないのですが、71 歳の私には、心のど真ん中に響く題材だったので、この本は読みたいと思いました。

「何事においても、引退などしてはいけない」

私は、製油業に 26 年、遊技業（パチンコ店）に 22 年携わって参りました。創業者は父で、私は 2 代目です。20 年前、氾濫を防ぐため河川を広げるという理由で、製油工場が県の収用に会い、立ち退きをしなければならなくなりました。その時製油業を止めております。その立退料を元手に尾道市で不動産を購入し、不動産賃貸業を始めました。従って、それからは不動産賃貸業と遊技業が私共の仕事でした。

実は、昨年４月、コロナ禍の影響もあって遊技業から撤退しました。遊技業という仕事は、いくら社会貢献活動をしても、グレーなイメージがついてまわるというところがあります。4 つのテストの「みんなのためになるどうか」を唱和する時や職業奉仕について考える時には、果たしてこの仕事は「人の役に立つ仕事」と言えるだろうかと疑問に思うことが度々あります。従って、息子はサラリーマンなので、この仕事は私の代で終わりにしても良いと考えて来ました。そんな時、新型コロナが広がり始め、売り上げが急速に落ちて行き、このままではかなりの赤字が予想される事態となってしまいました。どうせ将来撤退することになるのなら、従業員の退職金を払う余裕のある今だと思い、廃業の決断をしました。その後ますますコロナ禍がひどくなり、飲食業や観光業の方達が苦しんでおられるのをテレビ等で拝見すると、あの時の決断もやむを得なかったと思っています。

私共の会社は家内労働的な規模でして、私も、朝と夜の 2 回毎日のように出勤して仕事をしておりました。仕事自体は面白く結構充実感がありました。廃業後の後始末が一段落すると、私の仕事は不動産賃貸の事務だけとなりました。私共の不動産賃貸は主として、尾道市にある土地を商業施設へ賃貸する仕事です。一度契約すると、長期間借りてくれますので、大きな変化がない仕事です。リスクや悩みは無いですが、逆に張り合いも無く、引退した気分になります。

引退すると早くぼけると言われていましたので、自分もそうなるのかと次第に心配になっております。これまでは、70 歳になったら仕事から引退して、のんびりと過ごしたりあちこち旅行したりしたいと思って来ました。皆さんの中にも、そう思っておられる方も多いでしょう。しかし、体さえ丈夫であるなら、引退をしない方が良いようです。

この本によると、「70 代の意欲の低下こそが、老化でいちばん怖いこと」「70 代で仕事からリタイアし一切の活動を止めると、一気に老け込む」そうです。「引退などと考えず、いつまでも現役であろうとすることが、老化を遅らせて、晩年を元気に過ごす秘訣」とのことです。今では私も、何かすることを見つけて、自分を暇な環境に置かないようにと心がけております。

このコロナ禍で自由に出掛けることも出来ませんでしたが、思い切って出掛けてみようともしています。今はともかく、身体を動かそう、脳を使おうと努力しています。

その意味では、熊谷会長に感謝しなければなりません。それは、クラブの幹事は若い人が望ましいのに、あえて高齢者の私を幹事に抜擢して頂いたからです。お陰で、皆さんの足を引っ張らないように頑張ろうという意欲が湧いております。

「運転免許は返納してはいけない」

運転は楽しいですし、どこでもさっと行けるので便利です。田舎では運転免許がないと外出するのに非常に不便です。運転免許がないと、家に引きこもることになり、一気に老け込むような気がします。

つい最近、私に高齢者講習の案内文が届きました。70 歳以上の人に来るようですが、遂に来たかと少しがっくりしました。高齢者講習は面倒ですが、私は運転できる限り 85 歳ぐらいまでは免許返納はしないつもりです。ただし、その頃まで生きていればの話ですが。ただ、ブレーキとアクセルの踏み間違い事故には注意しないといけません。ブレーキを踏むべき時に、思わずアクセルを踏んでいたという事故がよく起こります。これは、高齢者に限ったことではありません。
最近の新しい車は、踏み間違っても衝突寸前でブレーキがきくようになっています。私達夫婦も、自動ブレーキの付いた車に買い替えました。ただし、本当に壁にぶつかる直前に車が止まるのかどうか、怖くてテストをしたことはありません。

「介護を生きがいにしない」

昔は親の介護は 40 代～60 代ですることが多かったようですが、今は 70 代で 90 代の親の介護をすることも珍しくはありません。私の父は今年で 95 歳になります。9 年ほど前に軽い脳梗塞になりましたが、体は丈夫で、年令の割には元気に生活しておりました。
それが 5 年前から介護が必要になりました。最初は軽い症状で、自宅で普段通りに生活し、週 4 日デイサービスに通っていました。介護と言っても、デイサービスへ行き帰りする時の立ち会いとか、病院や散髪などで外出する時に車で送迎することぐらいでした。しかし最近は、筋力が弱くなり、歩行器がないと一人で歩けなくなり、さらに車イス生活が多くなって来ました。私も時間的余裕が出来たことや、父が頼りにすることもあって、段々と熱心に介護するようになり、もう少しで「介護を生きがいにする」という状態になるところでした。

しかし、今年 8 月には、ベッドから立ち上がるのさえ難しくなり、自宅で転倒して頭を打ち、救急車で病院に運ばれ手当てを受ける事がありました。その 2 日後にまた転倒し、今度は肩を骨折し、遂に入院することとなりました。看護師さんに状況を聞くと、1 人で歩くのは無理で、ずっと車イス生活だとのことです。
ケアマネージャーさんとも相談し、私たち家族も高齢なので、退院後に自宅で介護するのは無理だろうということで、退院後は有料老人ホームに世話になることにしました。今は尾道の介護付き有料老人ホームに入っております。

入院する前、父と話し「これからは施設でお世話になるしかないよ」と了承を得ていたとは言え、本人は老人ホームでどんな思いでいるのだろうと心配になります。時々家に帰りたがるという話を聞くと、可哀そうにと思ったりもします。感染防止のため短時間の面会しか許されておらず、思うように話も出来ません。父の施設内での状況が見えないと、施設に入るという判断で良かったのだろうかと悩むことにもなりますが、後は老人ホームにお任せするしかないと思っています。

この本には、「70 代は介護にのめりこみやすく、介護にのめりこむとその人の晩年が駄目になる。家族の介護に直面したら、介護保険制度なども駆使して、ヘルパーさんの手などを借りて下さい」と書いてあります。私も家族だけで介護するのは無理と判断し、ケアマネージャーさんに色々と相談しました。また、ヘルパーさんにも手助けしてもらい、大変助かりました。介護職に携わる人々には、頭が下がります。また、介護保険制度は、素人ながら素晴らしい制度だと感じています。

私は 70 代になってこんなに元気に生活出来るとは思っていませんでした。若い時は 70 代と言えばすごい年寄りのイメージがありましたので、私のイメージから言えば、私はまだ 60 代です。しかし、この本を読むと、今まさに私も「現代の 70 代」を経験していることを実感します。この本は私にとって、70 代の生き方を教えてくれる有意義な本です。皆さんも読んでみられたらと思います。
今日はこの本を少しだけ紹介しながら、私の現況と思いを述べさせて頂きました。有難うございました。